

令和 4 年度 宇都宮市立田原小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心や健やかな体を持ち、自ら考え、取り組み、判断し、新しい時代を創造的に生きる児童を育成する。

- (1) かしこく — よく考え がんばりぬく子ども
- (2) なかよく — すなおで 思いやりのある子ども
- (3) 元気よく — じょうぶで 明るい子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

全教職員の高い資質能力と協働性、家庭・地域との信頼関係を基盤とした、充実した学校経営を実践するための「豊かなふれあいと活力に満ちた、魅力ある学校」を目指す。

【目指す学校の具体像】 豊かなふれあいと活力に満ちた、魅力ある学校

【目指す教職員像】 自らの資質能力と協働性を高め続ける教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 居がいのある学校づくり

児童・教職員・保護者・地域・ボランティアなど、学校にかかわる誰もが自己存在感、自己有用感を実感できる学校づくりに努める。

(2) 創意ある教育課程の編成と地域とともにある学校づくり

児童・学校・地域の実態を踏まえ、知・徳・体の調和のとれた創意ある教育課程を編成し、教育目標の実現に努める。

また、伝統ある校風を基盤に、地域学校園や魅力ある学校づくり地域協議会と連携を図りながら、地域の豊かな教育力を生かした教育活動を推進するとともに、地域の声を学校評価に生かし、学校経営の改善に努める。

(3) 生きる力と社会性を育む教育実践

確かな学力と豊かな心、そして健やかな体をバランスよく育成するとともに、個人的資質及び公民的資質の伸長を図る。学校での学びを児童の将来につなぐことを意識し、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動することのできる力」を、カリキュラム・マネジメントを通して全教育活動で育成するように努める。

(4) 自己研鑽と組織的な学校運営の推進

教職員の心身の健康の保持増進を図るとともに、教育の質の向上と児童の健全な成長を目指すため、協働性と自律性のある学校組織力を高めつつ、勤務時間を意識した望ましい働き方を基盤とした学校運営に努める。

【田原地域学校園教育ビジョン】

自らすすんで何事にも取り組む子どもの育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 地域の豊かな自然や文化、人材等の教育資源を最大限に活用し、郷土への誇りや愛着心を育むとともに、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい児童の育成を目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開できる編成に努める。

- (2) カリキュラムマネジメントを通して、「自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」、「自らを律しつつ他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心」、「たくましく生きるための健康・体力」等、児童の「生きる力」の育成に重点を置き、学校生活に変化と潤いをもたせるような編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- 「多笑プロジェクト～みんながめざそうすてきな自分、みんなでつくろうすてきな学校～」として、学校経営の重点をわかりやすく示し、教職員・児童・家庭・地域との共有を図る。
- ・「学びのプロジェクト」「心のプロジェクト」「健やかプロジェクト」「たわらプロジェクト」の4つの柱において、目指す児童の姿とそれに向けた取組を明確にする。
- ・全教育活動を通して、「目標をもち、それに向かって主体的に取り組むことのできる児童」の育成に、特に力点を置いて取り組む。
- 地域の自然や文化を教材とした系統的・体系的な学びを通して、ねらいを明確にした特色ある体験活動及び宇都宮学の充実を図り、郷土愛の心を育てるとともに、学校・家庭・地域の三者による組織（地域協議会・PTA）の活性化と相互協力による教育実践を推進する。
- ・積極的な情報発信や学校公開により、教育活動の理解促進に努める。
- ・地域学校園各部会と連動・連携した教育実践に取り組む、学校力の向上を図る。

【学 習 指 導】

- ・児童の学習状況を的確に分析・把握することにより、個々の学習課題及び学年・学校課題を設定し、「宇都宮モデル」・「田原っ子の学び」の実践、少人数指導や一人一台端末等ICTを活用した授業及び次の授業につながる家庭学習の充実を通して、基礎・基本の確実な習得と活用、及び主体的に学ぶ態度の育成を図る。
- ・読解力や思考力・表現力の育成を目指し、問題解決的な学習や協働的な学習活動、言語活動等、カリキュラム・マネジメントを通し教科横断的な学習活動の充実を図る。
- 「宮・未来キャリア・パスポート」を有効に活用することで、児童が自己の変容や成長を実感し、新たな目標につなげたり将来の生き方を考えたりすることができるようにし、主体的に学びに向かう力や自己管理能力の育成を図る。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究体制を整備し、教職員の授業力・コーディネート力の向上を目指したPDCAサイクルによる積極的な授業改善を図る。

【児 童 生 徒 指 導】

- ・継続的な自己評価や個人内評価の実施により、自ら規律ある生活を実践する態度を育成する。
- ・学校生活における道德教育及びその要となる「道德科」のつながりを工夫する取り組みを進め、道德的实践力を向上させるとともに自ら道德性を追求する力を育成する。
- ・集団的な問題解決活動や、児童相互の認め合いや高め合いが実現できる場の設定、他者と関わる多様な交流活動や体験活動の実践を通して、一人一人のよさが生きる自治的な集団づくり・学級づくりの充実を図るとともに、自信や有用感を高め、自己実現力を育成する。
- ・読書活動や様々な事象との交流の充実を図り、広い見識と豊かな情操を育成する。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・児童の実態や傾向の分析・把握をもとに、健康・体力・食に関する指導を統合した健康指導の充実を図り、9年間を通して望ましい生活習慣を身に付けさせる。
- ・学習と生活を関連付けた体験的活動の充実により、学習内容を日常生活に活かすことができる可能性に気付かせ、「自らより健康的で安全な生活を創造する力」「自らの命を守るための危険予測・回避能力」を育成する。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	<p>A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的割合 95%以上</p>	<p>① 休み時間のうちに次の授業の用意をする指導を徹底する。</p> <p>② 学び合いの活動を積極的に取り入れる。</p> <p>③ 児童がめあてと見通しをもって授業に主体的に臨み、まとめと振り返りまで確実にできる授業を実施する。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的割合は、98.4%で、指標を3.4ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「宇都宮モデル」をもとにした「田原っ子の学び」の実践、少人数指導による授業、ICTを活用した授業及び家庭学習の充実を通して、学習内容の確実な理解と定着を図る。 ・主体的な学び、対話的な学びの実現、読解力や思考力・表現力の育成を目指し、問題解決的な学習や協働的な学習活動、言語活動等、多様な学習の充実を図る。
	<p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的割合 95%以上</p>	<p>① 道徳科の授業や豊かな体験活動の充実を図る。</p> <p>② 異学年との活動や幼保、高齢者、地域ボランティアとの交流の充実を図り、学年学級・学校を越えた人とのかわりを深める。</p> <p>③ 互いに認め合い、思いやりに満ちた学級づくりに努める。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的割合は、96.7%で、指標を1.7ポイント上回っており、地域住民の肯定的割合も、9割を超えている。保護者の肯定的割合は、99.1%であった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も道徳科の授業や様々な体験活動の中で、学校や学級全体の人を思いやって生活しようとする態度や、他の失敗に対する寛容性を養っていく。 ・帰りの会で、互いのよさを称賛し合う時間を設定して、互いに認め合い、思いやりに満ちた学級づくりに努めていく。
	<p>A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 学校でのきまりを徹底するために「田原小のやくそく」や「よい子の1日」を提示し、教職員が共通理解の下、繰り返し指導する。</p> <p>② 児童に「よい子の1日」に関する自己評価アンケートを実施し、重点項目を決め、それらを常に意識して学校生活を送れるよう指導する。</p> <p>③ ルールや約束を守る大切さや誠実に正直に行動するすばらしさ等について考えを深められるよう、学級活動や道徳教育、集会活動での講話などを充実させる。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的割合は、97.3%であり、指標を7.3ポイント上回った。保護者の肯定的割合は9割を超えており、地域住民の肯定的割合は100%であった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に「田原小よい子の1日」に関する自己評価アンケートを実施し、重点項目を決めていく。また、児童自らが日頃の生活を見直し、週ごとに守っていききたい目標を自分達で設定するなどして、よりよい学校生活を送れるよう指導していく。 ・道徳教育を充実させ、ルールや約束を守る大切さや誠実に正直に行動するすばらしさを児童に伝えていく。 ・児童会活動や学級活動といった特別活動の中で、きまりやマナーを基に、児童自身が自らを律し、判断できるよう指導していく。

<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」⇒保護者の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① 地域学校園で設定したあいさつ運動日の実施方法を工夫するとともに、PTA 生活指導部が参加するあいさつ運動を実施する。</p> <p>② 地域協議会と連携し、あいさつ標語を募集し、優秀作品を掲示する等して、あいさつへの関心・意欲を高める。</p> <p>③ 「時と場」、「相手」に応じて声だけでなく目礼や低頭といった「相手に気持ちがつたわる」あいさつについて具体的に指導する。</p> <p>④ 児童会主体のあいさつ運動や啓発活動を展開し、一人一人のあいさつへの意欲向上を図る。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的割合は、96.7%になっている。保護者の肯定的割合が昨年度7割であったのに対し、本年度は指標を6ポイント上回り、8割を超えることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学校内外での地域の方々へのあいさつの仕方について、「時と場」「相手」を具体的に示しながら指導していく。 ・「あさがあいさつ運動」に「目礼と低頭」を加えた「あさがおもって」運動を児童会主体で継続しながら、相手にさらに気持ちが伝わるあいさつについて、具体的に指導していく。
<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」⇒児童の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 各種学校行事や校外学習等の教育活動において、目標の達成や課題解決的な学習過程を重視した指導に努める。</p> <p>② 係活動や当番活動、児童会活動などにおいて、最後まで責任や役割を果たすことのよさに気付かせるようにする。</p> <p>③ 学校農園活動や町探検等の校外学習などにより、働くことの大切さや喜びを実感させる教育活動等に取り組み、キャリア教育の充実を図る。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的割合は 92.9%で、指標を 2.9 ポイント上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・各種行事や教育活動において、目標の達成や課題解決的な学習過程を重視することで、達成感をより強くもたせるよう努める。 ・系統性のあるキャリア教育の充実に努める。
<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「健康や安全に気を付けて生活している」⇒児童の肯定的割合 95%以上</p>	<p>① 登下校指導の徹底や安全教育の実践等を通して、健康や安全に対する自己管理能力の育成を図る。</p> <p>② 体育的行事における事前練習の充実やたわらの時間の外遊び、検定における目標設定等を通して、体育的活動の充実を図る。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的割合は、97.3%で昨年よりも 0.7 ポイント上回り、指標を 2.3 ポイント上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取り組みを継続していく。 ・学校内での歩行に関して、環境整備をし、視覚的支援をしていく。 ・感染症の予防で手洗いの励行をしていく。
<p>A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」⇒児童の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① キャリア教育や中学校訪問等を通して、自分の夢や目標を明確にし、希望をもって生活できる環境づくりに努める。</p> <p>② 自分の特性の理解やよりよい人間関係づくりを通して、主体的に役割を果たしたり、人のために行動しようとする態度を育むために、各教科や特別活動、道徳等との関連を図った学習を展開する。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的割合は 92.9%で、指標を 2.9 ポイント上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・外部講師を生かしたキャリア教育の充実や、特別活動、道徳教育等との連携による主体性の伸長を意識した学習活動を展開する。 ・校外美化活動を通して地域のために貢献しようとする意欲を育てる。
<p>A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「外国語活動の授業やALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」⇒児童の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① 教員が英語を使うとともにALT を活用し、英語のやり取りを中心とした授業を展開する。</p> <p>② ALT との交流を計画的に実施し、ALT と自由に会話を楽しむことを通して、英語を使ってのコミュニケーションへの関心を高める。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的割合は、90.2%で、指標を 10.2 ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取り組みを継続していく。 ・じっくりとたくさんの英語を聞かせる機会を確保し、英語に慣れ親しむ環境をつくる。

目 指 す 学 校 の 姿	A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート「宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童の肯定的割合 80%以上	① 生活科や社会科、総合的な学習の時間において、身近な地域や宇都宮市を教材にした学習を展開する。 ② 市役所職員等ゲストティーチャーを活用した授業や、児童による他学年への情報発信の取組により、宇都宮の良さを実感できるようにする。	B	【達成状況】 児童の肯定的割合は、82.5%で、指標を2.5ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・次年度も継続して、教科や単元の特性に合わせて、身近なよさが宇都宮市のよさにつながることを気付かせていく。
	A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケート「パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的割合 90%以上	① コンピュータやネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、基本的な操作の習得を図る。 ② 学校図書館司書を活用して、学習及び情報センターとしての図書館の機能を発揮させ学習の充実を図る。 ③ GIGA スクール構想に伴う一人一台端末を日常的に利用・活用し教科の学びを深める。	B	【達成状況】 児童の肯定的割合は、95.6%で、指標を5.6ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・情報収集だけでなく、自分の意見を発表することにICTを活用したり、プログラミング教育と絡めて個人用端末を効率よく使用したりできるようにする。 ・学校図書館司書を活用して、学習・情報センターとしての図書館の機能を発揮するとともに、教科や単元の特性に合わせて、教室への図書の貸出を行い、学習の充実を図る。
	A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的割合 90%以上	① 感謝の会や農園活動等で、地域の高齢者との交流を行い、いたわりの気持ちや感謝する気持ちの醸成に努める。 ② 地域での生活や登下校の中で、相手を思いやり、時と場に応じたあいさつや行動ができるよう指導の充実に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的割合は、96.7%で、指標を6.7ポイント上回っており、保護者の肯定的割合と地域住民の肯定的割合も9割を超えており、地域住民の肯定的割合は、93.8%であった。 【次年度の方針】 ・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、感謝の会や運動会といった行事の中で、感謝の手紙や呼び掛けなど、活動を工夫しながら、いたわりや感謝の気持ちを育てていくようにする。 ・行事に関わらず、地域での生活や登下校の中で、心のこもったあいさつをするなど、日頃の行動の中で、感謝や思いやりの気持ちが伝わる言動について考え、実践できるようにしていく。
	A 12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている」 ⇒児童の肯定的割合 90%以上	① 緑の日や親子奉仕作業、除草作業など、校内の自然や環境を維持することの大切さを実感させる教育活動に取り組む。 ② 地域の協力を得て「探鳥会」を実施し、山田川沿いの自然を味わうことを通して、地域の自然の素晴らしさやそれを守ることの大切さを意識させる教育活動に取り組む。 ③ 特別活動や児童会活動を通して、節電、節水、食の大切さ等を意識させるよう努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的割合は91.3%で、指標を1.3ポイント上回っている。昨年度からは3.7ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・校内外の自然や環境を維持することの大切さを実感させる教育活動を継続するとともに、振り返りを通して、活動の意義をより強く意識させるようにする。 ・学校で行われる行事や日常生活における行動などをSDGsと結び付け意識させたり考えたりすることで、「持続可能な社会」について関心を高めていく。

<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回 90% 以上</p>	<p>① 一人一人の教育的ニーズの把握に努め、個別の支援計画を生かした適切な教育支援を行うように努める（学級内、交流及び共同学習、かがやきルームの活用）。</p> <p>② 特別支援学級においては、体験的学びを重視した実践に努める。</p> <p>③ 必要に応じてケース会議を開催し、組織的な支援体制を確立して対応するよう努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的割合は 100%であり、指標を 10 ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も、児童指導連絡会や校内支援委員会といった機会を活用し、児童一人一人の特性を理解できるように努めていく。 ・児童の発達の特性や理解度に応じて、デジタル機器を効果的に活用するなど、個別最適な指導の充実を図る。</p>
<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的割合 90% 以上</p>	<p>① 年 4 回「いじめアンケート」を実施し、結果をもとに担任が教育相談を行い、解決を図る。解決が不十分な場合は、いじめ対策委員会による解決を図る。</p> <p>② 年 2 回の「いじめ根絶強化月間」に合わせ、標語・学級宣言文・個人の意見文を作成・掲示し、個々の児童の意識を高める。</p> <p>③ 「いじめ 0 集会」を HP 等で公開するなど、学校及び家庭・地域全体の意識を高める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的割合が 99.5%で、指標を 9.5 ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、教職員が連携して、いじめの早期発見、解決に努めていく。 ・年 4 回の「学校生活アンケート」や教育相談、日頃の生活の細やかな見取りを通して、児童一人一人の特性や困り感について理解し、寄り添いながら指導をしていく。 ・児童会主催による「いじめゼロなかよし集会」をオープンスクールで公開したり、HP 上で動画を限定公開したりする等、感染症対策に合わせた方法で、引き続き学校での取り組みを具体的に発信していく。 ・実情に応じてケース会議を開催し、組織的な支援体制のもとに問題を早期発見し、早期解決を図っていく。</p>
<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童（生徒）がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童の肯定的割合 90% 以上</p>	<p>① 学習指導や特別活動をととして、自己肯定感を高める取り組みを意識的に行うとともに、児童の良さを積極的に評価するなどして、不登校を未然に防止する教育環境を整える。</p> <p>② 児童相互の認め合い、高め合いが実現できる場の設定、他者と関わる多様な交流活動や体験活動の実践を通して、一人一人のよさが生きる集団・学級づくりの充実を図るとともに、自信や自己有用感を育むよう努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的割合は、97.3%で、指標を 7.3 ポイント上回っている。また、8 割代であった保護者の肯定割合も、9 割を超えている。</p> <p>【次年度の方針】 ・年 4 回の「学校生活アンケート」や教育相談での話をもとに、児童の実態を把握し、問題の早期発見・解決を図るようにしていく。 ・欠席状況共有シートを活用し、不登校傾向にある児童の指導について共通認識を図り、学校全体で、支援にあたるようにする。 ・学級活動や帰りの会などで、お互いのよさを認め合えるような時間を設定し、学級内での一人一人の自己肯定感を高めていくようにする。</p>
<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回 90% 以上</p>	<p>① 一人一人の教育的ニーズの把握に努め、個別の支援計画を生かした適切な教育支援を行うように努める。</p> <p>② 必要に応じてケース会議を開催し、組織的な支援体制を確立して対応するよう努める。</p> <p>③ 保護者に対して、電話や連絡帳を通して連携を図るとともに、実態に応じて適切な支援に取り組む。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的割合は 100%で、指標を 10 ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・保護者と連携を図りながら、個別の支援計画を生かして一人一人の教育的ニーズの把握に努める。 ・組織的な支援体制を生かした支援に努める。 ・必要に応じて関係機関との連携を図る。</p>

<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「私は今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的割合 95%以上</p>	<p>① 学校評価や学校行事の反省等を生かし、児童が生き生きと活動する教育活動を行い、活気のある学校づくりに努める。</p> <p>② 集会活動・体験活動等を工夫し、児童が生き生きと主体的に活動できるよう努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動の充実 ・外部講師等による体験活動の充実 ・児童集会・音楽集会の充実 <p>③ 教育相談の機会を生かして、より良い人間関係づくりに努める。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的割合は 95.1%で、指標を 0.1 ポイント上回っている。昨年度からは 1.0 ポイント下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・縦割り班や集会活動等において、児童が主体的に活動する様子を積極的に発信する。 ・係活動や委員会活動を活発化させ一人一人に役割をもたせたり、教育相談を通して良好な人間関係づくりを行ったりするなど、居がいのある学級経営を充実させる。
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「教職員は分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」 ⇒児童の肯定的割合 90%</p>	<p>① 「基礎学習の時間」において、漢字・計算・音読等を発達段階に応じて取り入れ、基礎的・基本的な内容の確実な定着が図れるよう努める。</p> <p>② 一人一授業研究を行い、「わかる・できる・楽しい」授業の工夫に努める。</p> <p>③ 「田原っ子の学び」を継続して、主体的に学習する態度を育てる。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的割合は、98.4%で、指標を 8.4 ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取り組みを継続していく。 ・教職員の研修等で、授業力の向上が図れるようにするとともに、本校の課題を明らかにして、授業の中で重点として引き続き取り組む。 ・教職員の専門性を生かした質の高い授業を展開できるよう、教科担任制を推進する。
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 全職員が学校経営に参画意識をもって、協力して教育に当たるように努める。</p> <p>② 学校行事等において役割を明確に分担するなどして、同僚性を発揮しながら取り組むべき業務を設定する。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的割合は 95.2%で、指標を 5.2 ポイント上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・同僚性やチームというキーワードを、常に意識しながら業務に取り組む。
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】出退勤記録 全教職員平均の時間外勤務時間⇒45 時間未満</p>	<p>① 学校リフレッシュデーを設定し運用を図る。</p> <p>② ミラ임による出退勤時刻の把握を通したマネジメントの実践に努める。</p> <p>③ 児童と向き合う時間確保のための各種活動・日課の工夫・改善を図る。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の平均の時間外勤務時間は 23.2 時間で指標を上回っている。昨年度よりも 1.9 時間削減している。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・ワークライフバランスの実現を目指したり、教職員の意見を生かし各種活動や日課の工夫・改善、業務の簡略化を図ったりしながら、児童と向き合う時間を確保する。
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 田原中の生徒とともに、あいさつ運動を実施する。</p> <p>② 3校の教職員が協力して、小中学校において一貫した学習指導や、保健指導、食育等の取組を実施する。</p> <p>③ 陸上競技大会の練習など、学校行事等において、中学生のボランティアを募り、児童と接する機会を作ったり、オンラインによる交流に取り組んだりする。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的割合は 94.6%で、指標を 4.6 ポイント上回っている。昨年度よりも 13.5 ポイント上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・各取組についてのより積極的な発信を図る。

<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し楽しい」⇒児童の肯定的割合 95%以上</p>	<p>① 「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携し、学校・保護者・地域住民が一体となって、教育活動の充実と活性化を図る。</p> <p>② 授業ボランティア（地域の外部講師・街の先生）と連携した授業を計画的に実施し、その成果について児童と確認するとともに、広く情報発信する。</p> <p>③ 地域人材を活用した「ふるさとの自然や文化に誇りをもち、未来を創る学び」を設定し、系統的なねらいを明確にしながら、豊かな感性と郷土愛を育てる学びの充実を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的割合は 94.5%で、指標を 0.5 ポイント下回っている。昨年度より 2.7 ポイント下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・各教育活動や児童会主催の「感謝の会」を実施する中で、地域や企業の方々に協力いただいて、自分たちの学習が充実していることに気付けるようにする。 ・各教育活動のねらいを明確に示すよう努める。
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」⇒保護者肯定的割合 95%以上</p>	<p>① 「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携し、学校・保護者・地域住民が一体となって、教育活動の充実と活性化を図る。</p> <p>② 授業ボランティア（地域の外部講師・街の先生）と連携した授業を計画的に実施し、その成果について児童と確認するとともに、広く情報発信する。</p> <p>③ 地域と関わりのある行事の振り返りの場を設け、礼状を書いたり、活動の様子を校内に掲示したりするなどして、満足感や周囲の人への感謝の念をもたせるようにする。</p> <p>④ 地域と連携して行った活動の様子を保護者向けに学校だより等で発信し、認識を広げる。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的割合は 95.2%で、指標を 0.2 ポイント上回っている。昨年度よりも 5.3 ポイント上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種活動のねらいをより明確に示して家庭や地域との連携を深めるとともに、取組や成果を学校からの各種たよりやホームページ等で積極的に発信していく。
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」⇒保護者肯定的割合 80%以上</p>	<p>① 保護者や学校施設利用者へ災害時避難方法の周知や児童送迎時の自家用車乗り入れ方法の周知など、危機対応に関する情報を提供する。</p> <p>② 全教職員による安全点検を毎月行っており、施設・設備の整備・点検を実施し、修繕・補修を迅速に行い、児童や利用者が安全に活動できる環境づくりに取り組む。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的割合は、93.3%で、指標を 13.3 ポイント上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取り組みを継続していく。 ・利用者を対象にした体育館に関する連絡会議や、オープンスクール後の安全管理に関するアンケート等を検討し、引き続き安全に配慮した環境作りに取り組んでいく。
<p>A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「パソコンや図書等を学習に活用している」⇒児童の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① 個人用端末や実物投影機等の維持管理の徹底を図り、学習に必要な教材・教具の整備等に努める。</p> <p>② 情報メディア教育主任や学校図書館司書と連携し、教室や図書室が活用しやすいよう、環境整備に取り組む。</p> <p>③ GIGA スクール構想に伴う一人一台端末の効果的な活用法について、職員研修等で共通理解を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的割合は、95.6%で、指標を 15.6 ポイント上回っており、昨年度に比べ、ても 2.3 ポイント上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、個人用端末における、デジタルドリルやデジタル教科書などの整備を行い、授業などで効果的に活用できるようにしていく。 ・次年度も、各学年の年間指導計画に合わせて、図書資料を準備したり、特設コーナーを設置したりして、学習の充実を図る。

本校の特色・課題等	<p>B1 児童は、家庭学習の習慣が身に付いている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「私は、宿題や自主学習を進んで行っている」⇒保護者の肯定的割合 85%以上</p>	<p>① 家庭学習がんばりカードを活用し、主体的に取り組めるよう支援する。</p> <p>② 模範的な自主学習の内容を紹介したり、「自主学習のすすめ」を発行したりすることで、自主学習の内容の充実を図る。</p> <p>③ 家庭学習でも一人一台端末を活用し、楽しく取り組むことができるよう工夫する。</p> <p>④ 「家庭学習のすすめ」を通して家庭の理解・協力を得る。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的割合は、86.9%であるが、保護者の肯定的割合が 81.4%と、指標を 3.6 ポイント下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・家庭学習の重要性を伝え、継続して取り組んでいく。家庭学習がんばりカードを活用したり、がんばり学習月間を実施したりして、家庭学習の定着を図る。 ・本年度は2回行った「漢字・計算オリンピック」を来年度も実施し、児童の意欲向上と基礎・基本の定着を図る。 ・家庭学習の内容をドリル、漢字練習、プリント学習以外にも個人用端末を活用して、楽しく取り組めるように工夫する。 ・家庭学習の重要性を機会あるごとに、児童や保護者に発信して、家庭学習の習慣の意識付けを図る。</p>
	<p>B2 児童は、食事のマナーを身に付けている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「食事のマナーを意識して食事をしている」⇒保護者の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① マナー週間を設定し、意識付けを図る。</p> <p>② 担任と栄養士が連携して、児童への声掛けをする。</p> <p>③ 「食育だより」を通して、家庭の理解協力を得る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・保護者の肯定的割合は 75.2%で、指標を 4.8 ポイント下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・家庭での箸の持ち方、食事の仕方等について学校から食育だより等を通して啓発していく。</p>
	<p>B3 本を読むことの楽しさや大切さがわかる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「私は、進んで読書をしている」⇒児童の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① 朝の読書（朝の活動）を週2回実施する。</p> <p>② ボランティアによるクラスごとの「読み聞かせ会」を、年間を通して計画的に実施する。</p> <p>③ 担任による各教科等での本の紹介や、図書館司書によるブックトーク、読み聞かせ等により、読書への関心を高める。</p> <p>④ 第3土曜日の「家読の日」において、書籍名やコメント等を記入する記録用紙を工夫するなど、家庭での読書活動を推進する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的割合が、82.5%で、指標を 2.5 ポイント上回っている。また、保護者も 61.8%と、昨年度より 9.7 ポイント上がっている。</p> <p>【次年度の方針】 ・図書館司書によるブックトークや読み聞かせ等を行い、読書への関心を高められるようにする。 ・読書週間に合わせて、児童のおすすめの本のコーナーを設置し、読んでみたいと思う本の幅を広げる。 ・ICTを活用して、おすすめの本の紹介や、読書の幅を広げられるような情報を発信していく。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

・学校運営に関する質問項目については、指標を上回っているものが多いので、学校・地域・家庭の三者による組織の活性化と相互教育による教育実践を推進し、現状を維持できるよう努めていく。

・本校で実施している教育活動について、ねらいを明確にして実践していくとともに、保護者や地域住民の理解を深められるよう、今後もより積極的な情報発信に努める。

○校内における情報の共有化とともに、地域学校園における目標・目的の共有化に努め、小中学校9年間を見通した教育活動を展開できるようにし、学校力の向上を図る。

【学習指導】

○「田原っ子の学び」を意識した授業の展開を継続して実践してきたことで、児童は、めあてや見通しを立てて学習に取り組むことができるようになってきた。また、授業の中で、個人用端末を活用したことで、個に応じた学習を進めたり、調べ学習の幅を広げたりすることができた。

・本年度も、家庭学習の習慣化を図るために、様々な取組を行ってきたが、保護者85%の指標を下回る結果となった。今後は、学校から保護者へ向けて家庭学習の重要性についての説明を行ったり、家庭学習の進め方等の情報を多く発信したりするなどして、保護者の協力を得られるように働きかけていきたい。

【児童指導】

○きまりやマナーを守っているという意識について、昨年度に比べ、児童の肯定的割合が上がった。今年度の重点目標として、「気持ちの伝わるあいさつ」と「おちついた生活態度」の2つを設定し、その目標に向かって、児童自身が生活を振り返り、週の学級生活目標を設定するという試みを実施した。児童自らが考えて設定しているので、守ろうとする意識が高まり、一人一人があいさつや生活態度について深く考えて行動する姿が見られた。今年度末にも、「田原小よい子の1日」の中のきまりやマナーに関する項目について自己評価アンケートを実施し、児童自身の規範意識を把握し、重点項目を決め、指導を継続していきたい。また、集会の講話や生活目標の設定などの他に、来年度も学級目標の一つにきまりやマナーに関するものを入れたり、児童会主導の活動を取り入れたりするなどして児童自身の規範意識を高めていきたい。

○本年度もマスクを着用しており、大きな声でのあいさつを控えるようにしなければならなかったため、従来の「明るく先に顔を上げて」の頭文字をとった「あさがおあいさつ」に、「目礼や低頭」の頭文字をとった「あさがおもって」運動を展開した。引き続き、「相手に気持ちが伝わるあいさつ」について、具体的に指導していきたい。

・教職員がいじめや不登校を生まないための指導をしているかどうかを問う項目では、本年度も児童の肯定的割合が高く、教職員による指導が学校全体にいきわたっている様子が見受けられる。年4回の学校生活アンケートや年2回の教育相談を継続していきながら、問題の早期発見と解決に努めたい。また、いじめを生まないための活動として、いじめゼロ集会を計画し、今後もオープンスクールでの公開や HP 上に限定した動画の視聴を検討するなど、感染症対策に合わせた方法で、具体的な取組を積極的に地域に発信していきたい。

【健康指導】

・学校全体として、休み時間等の外遊びを奨励し児童も活発に活動しているが、放課後や休日についてはあまり運動していない状況が見られる。そのため、さらに運動することの大切さについて児童・家庭に情報を発信していく必要がある。

・児童の食に関する意識の向上のため、マナー週間を実施し、給食に関わる全ての人へ感謝の気持ちを持ち、食品ロスの観点からも、残さず食べることを呼びかけた。また、給食週間に給食に関するクイズなどを放送した。

・健康・給食委員会活動で手洗い週間の活動を行い、手洗いの練習やハンカチチェック等、啓発活動を行った。制限の多い生活の中で我慢を続けながらもルールを守って落ち着いて生活し、互いの安全に留意しながら生活を送ることができていた。

7 学校関係者評価

【学校運営】

・コロナ禍の中、「豊かな心や健やかな体をもち、自ら考え、取り組み、判断し、新しい時代を創造的に生きる児童を育成する。」教育目標を学校・児童・地域・家庭の四者がよく理解・共有して実践されている。

・未来を担う子供たちへの正に人格づくりが知識を叡知に変えて活動できる良き大人づくりの基礎をしつかり教えている。

・郷土愛の醸成について、教育、地域、行政の更なる連携協力が必要であると感じる。

・ホームページで授業や活動の様子を発信しているおかげで、コロナ禍で学校へ行く機会が減っても、学校の様子がわかり、子供たちとも話題を共有できる。これからも継続してほしい。

・教職員の時間外勤務が削減したことは、働き方改革改善策に取り組んだ成果と感じ取れる。

・臨時休校や登下校時刻変更の際の防犯パトロール協力者への連絡について、対応をしてほしい。

【児童指導】

・児童自身の規範意識が高まり、肯定割合が昨年より上がったことは素晴らしい。

・長く懸案だった挨拶についても指標を達成でき、継続から定着へと進んでいると思われる。しかし、「あいさつが素晴らしい」、「概ねできている」との地域の方の声と比べ、保護者からは「校内、校外であいさつする児童が少ない」との声もあり、保護者とも連携して指導を続けていくとよい。

・いじめ問題に対しては、本年度も「いじめゼロ集会」等の実施から、いじめ対策の必要性を教職員・児童が認識して行動している結果が出ており、取組の効果を感じている。

【健康指導】

・たわらの時間の外遊びを奨励した体力づくりは良き伝統として繋いでほしい。今後も、児童の体力面強化の推進を願う。

・食事のマナーについては、コロナ禍において時期を得た施策である。家庭での役目も大きいことから、保護者にも大切なことと気付いてもらえるよう、家庭と連携を強化し、推進してほしい。

・姿勢に関して、授業中の椅子に座っている姿が、背中が丸まり、頭が下がっている児童が多く気になる。

パソコンを使う機会も増え、視力もとても心配なため、子供たち自身が姿勢を意識する取組も増やしているといふ。

【学習指導】

- ・教職員が使命感、思いやり、指導力、責任感などを常に意識して、創意工夫して授業を行っていることが、指標の結果に現れている。
- ・英語に慣れ親しむこと、郷土の史跡や文化を学ぶこと、ICT 機器の活用は、将来児童が生きていく社会では今以上に必要なことであり、生き抜く基礎になりうるものと感じるので、楽しく学べる環境づくりを推進願いたい。郷土愛づくりに河内地区ガイドブック活用も一考と思う。
- ・家庭学習については、保護者の担うところも大きいですが、保護者頼みだけでない創意工夫を学校としても進めてほしい。
- ・学校で本を読んだり家読をしたりという取組によって本を読む機会があるのはとても良いと思う。ICT の時代ではあるが、本を読むことは大切なので、引き続き読書環境の充実と家庭での読書活動の推進に努めてほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・校長の学校経営理念のもと、継続的な取組を重ねてきた結果、成果が現れてきていることから、基本的に次年度も今年度の取組を継続していく。
- ・児童の健全育成のためには、家庭・地域との連携が必要不可欠なため、学校での取組を理解していただけるよう、工夫して情報公開や発信に努めていく。
- ・学校が保護者や地域の方から多くの協力を得て、児童自身が住む地域について学べることは、児童にとっても地域にとっても有意義なことであるので、各種教育活動等のねらいを明確にして、今後も取組を継続するとともに充実させていく。
- ・今後も学校と家庭、地域が目的を共有しながら連携した取組を充実させることで、児童の心身ともに健やかな成長を目指していく。
- ・課題としてあげられたものについては早急に対応策を検討し、保護者や地域とも連携して速やかに実行していく。